

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

《セグメント別業績》

(単位：百万円)

	売 上 高				セグメント利益（営業利益）			
	当第1四半期	前第1四半期	増減額	前年同期比(%)	当第1四半期	前第1四半期	増減額	前年同期比(%)
紳士服販売事業	41,856	42,587	△730	98.3	4,042	4,540	△497	89.0
カード事業	899	821	77	109.4	199	101	97	196.1
商業印刷事業	2,877	2,726	151	105.6	219	117	102	187.3
雑貨販売事業	4,069	4,226	△156	96.3	177	204	△26	87.0
その他	2,999	2,404	594	124.7	△4	123	△127	—
調整額	△1,185	△1,038	△147	—	17	25	△8	—
合計	51,516	51,728	△211	99.6	4,651	5,112	△460	91.0

(注) セグメント別売上高、セグメント利益（営業利益）はセグメント間取引相殺消去前の数値であります。

当第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）におけるわが国経済は、昨年未以降、政権交代による経済政策への期待感から、円安が進み、株価も上昇するなど、景気回復の期待感が高まる一方で、長引く欧州債務問題や新興国の景気減速などによる世界経済の減速懸念などから、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような状況下、当社グループはお客様のニーズにお応えすべく、商品サービスの向上などに取り組んでまいりました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の当社グループにおける売上高は前年同期比99.6%の515億16百万円、営業利益は前年同期比91.0%の46億51百万円となりました。

経常利益は、「包括的長期為替予約契約（コーポンスワップ契約）」等に係るデリバティブ評価益3億34百万円（前年同期はデリバティブ評価損5億41百万円）を営業外収益として計上したことなどにより、前年同期比113.1%の54億82百万円となりました。

特別損失では、減損損失1億11百万円などを計上いたしました。

以上の結果、四半期純利益は前年同期比124.2%の31億70百万円となりました。

セグメント別の営業の状況は、以下のとおりであります。

なお、以下の事業別売上高、セグメント利益（損失）は、セグメント間の内部取引相殺前の数値であります。

#### <紳士服販売事業>

〔青山商事(株)スーツ事業、ブルーリバーズ(株)、(株)エム・ディー・エス、(株)栄商、服良(株)〕

当事業の売上高は前年同期比98.3%の418億56百万円、セグメント利益（営業利益）は前年同期比89.0%の40億42百万円となりました。

当事業につきましては、一都三県を中心とした着実な出店、移転等を実施するなどマーケットシェア拡大を図るとともに、クールビズ商品等に関連した販促をテレビCMを中心に展開いたしました。スーツなどが低調に推移したことなどから、既存店売上高は前年同期比97.0%となりました。

なお、4月から6月までの3ヶ月間のメンズスーツの販売着数は前年同期比90.1%の563千着となりました。平均販売単価は前年同期比104.8%の24,636円となりました。

当第1四半期（4月～6月）の店舗の出退店等の状況につきましては、以下のとおりであります。

#### <スーツ事業の業態別、出退店等の状況及び期末店舗数（平成25年6月末現在）> (単位：店)

業態名	洋服の青山	ザ・スーツカンパニー	ユニバーサルランゲージ	ブルー エグリージオ	合計
出店〔内 移転・建替〕 （4月～6月）	7〔2〕	0	1	1	9〔2〕
閉店（4月～6月）	0	0	0	0	0
期末店舗数（6月末）	751	39	6	4	800

#### <カード事業>〔(株)青山キャピタル〕

当事業につきましては、改正貸金業法等の影響などがある中、売上高は前年同期比109.4%の8億99百万円、セグメント利益（営業利益）は前年同期比196.1%の1億99百万円となりました。

なお、平成25年5月末現在の「AOYAMAカード」の有効会員数は366万人となりました。

#### <商業印刷事業>〔(株)アスコン〕

当事業につきましては、新規取引先の受注増などにより、売上高は前年同期比105.6%の28億77百万円、セグメント利益（営業利益）は前年同期比187.3%の2億19百万円となりました。

#### <雑貨販売事業>〔(株)青五〕

当事業につきましては、業界内の競争激化などにより、売上高は前年同期比96.3%の40億69百万円、セグメント利益（営業利益）は前年同期比87.0%の1億77百万円となりました。

店舗につきましては、当第1四半期（3月～5月）に1店舗を開店したため、平成25年5月末の店舗数は132店舗となりました。

＜その他＞〔青山商事(株)カジュアル・リユース事業、(株)イーグルリテイリング、(株)glob〕

その他の事業につきましては、売上高は前年同期比124.7%の29億99百万円、セグメント損失（営業損失）は4百万円（前年同期はセグメント利益（営業利益）1億23百万円）となりました。

青山商事(株)カジュアル・リユース事業につきましては、既存店売上高は99.0%となりました。

当第1四半期（4月～6月）の店舗の出退店等の状況につきましては、以下のとおりであります。

＜その他に含まれる業態別、出店、閉店、期末店舗数（平成25年6月末現在）＞ （単位：店）

業態名	青山商事(株) カジュアル・リユース事業				(株)イーグル リテイリング	(株)glob
	キャラジャ	リーバイス ストア	セカンド ストリート	ジャンブル ストア	アメリカン イーグル アウト フィッターズ	焼肉きんぐ
出店（4月～6月）	0	0	0	0	1	1
閉店（4月～6月）	0	0	0	0	0	0
期末店舗数（6月末）	25	5	3	2	6	10

## （2）財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における資産について、流動資産は1,755億38百万円（前連結会計年度末比98億99百万円減）となりました。主な要因は、現金及び預金が51億62百万円、受取手形及び売掛金が29億52百万円、有価証券が69億84百万円それぞれ減少しましたが、営業貸付金が44億15百万円、仕掛品が5億15百万円それぞれ増加したことによるものであります。

固定資産は、1,574億94百万円（前連結会計年度末比14億27百万円減）となりました。主な要因は、投資有価証券が10億47百万円、投資不動産が10億7百万円それぞれ減少しましたが、有形固定資産が10億7百万円増加したことによるものであります。

この結果、資産合計は3,330億41百万円（前連結会計年度末比113億31百万円減）となりました。

負債について、流動負債は808億2百万円（前連結会計年度末比31億66百万円減）となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金が27億61百万円、短期借入金が4億円、未払法人税等が69億55百万円それぞれ減少しましたが、1年内償還予定の社債が90億円増加したことによるものであります。

固定負債は、113億77百万円（前連結会計年度末比89億99百万円減）となりました。主な要因は、社債が90億円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は921億79百万円（前連結会計年度末比121億66百万円減）となりました。

純資産合計は、2,408億61百万円（前連結会計年度末比8億34百万円増）となりました。主な要因は、利益剰余金が6億35百万円増加し、自己株式による減少額が4億24百万円減少しましたが、新株予約権が2億28百万円減少したことによるものであります。

## （3）研究開発活動

該当事項はありません。